

市場化テスト後のアジ研図書館 運営事情

うまく、いっているの？

市場化テスト入札対象業務

- 1) 整理業務
- ①受入 (自ら実施)
 - ②目録作成 (洋・和:業務委託)
多言語図書(自ら実施)
 - ③装備 (業務委託)
 - ④雑誌記事索引作成 (自ら実施)

市場化テスト入札対象業務

- 2) 閲覧・利用者サービス業務
- ①来館利用者対応 (業務委託)
 - ②配架 (業務委託)
 - ③閲覧環境整備 (業務委託)
 - ④貸出・返却 (業務委託)
 - ⑤複写サービス (業務委託)
 - ⑥蔵書点検 (自ら実施)
 - ⑦製本業務 (自ら実施)
 - ⑧資料補修 (簡易なもの:業務委託)
 - ⑨統計作成 (分担)
 - ⑩レファレンス(簡易なもの:業務委託)

自ら落札者となった市場化テスト

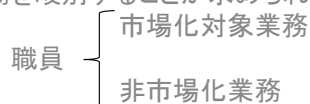
- (1) 組織改編
- 組織規程の改正
- 専ら市場化業務を担当する課の設置
 - 専従職員(2名) 課長+課長代理

(2) 業務委託

- ・閲覧・利用者サービス業務
従来から派遣社員による運営
→業務委託(4名)
- ・新たに、目録採録業務を業務委託
→洋・和(1名)年間9,000件

バックヤード業務

『バックヤード業務』とは何か
経理上、市場化対象業務とそうではない
業務を峻別することが求められる。



職員が市場化対象業務に相当する部分
をおこなうことをバックヤード業務と呼んで
いる。

モニタリングは可能か？

近い将来、モニタリングは不可能になる？

○目録は、職人的な仕事

カタログラーがいなくなる

そのときは、モニタリングは不可能

→目録能力維持の為に和・洋目録の留保？

○閲覧業務は図書館と閲覧者を繋ぐ

参考業務の中で獲得する能力

アジ研はなぜ自ら落札したか

1)アジ研図書館の歴史

○1960年設立当初から、途上国現地と関わりながら収集活動、書誌活動を行ってきた。

○途上国現地への図書館職員の派遣
地域専門図書館員の育成

○図書館職員の研究会への参加

一定のテーマについての文献目録などの編成

○アジ研図書館職員のコア・コンピタンス

現在職員14名

言語：韓国語、中国語、タイ語、マレー語、インドネシア語、アラビア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、ロシア語(10カ国語に及ぶ)

2)現在も続く運営手法

海外書店からの直接購入

新聞社、海外発行元からの直接購入(政府刊行物など)

定期的な資料現地調査への派遣

次回も自ら落札者となるのか

内閣府は引き続き、官民競争入札とすることを求めている

職員の高齢化問題

今後4年の間に6人の職員が定年を迎える
後継者をどう育てることができるか。

少ない職員数

一定程度の職員数がないと維持は困難
一つの言語に2人は割り当てたいが...